「食の安全ダイヤル」に寄せられた質問等(平成18年7月分)について

(1) 問い合わせ件数

平成18年7月1日～平成18年7月31日

(7月31日時点)

59件

*うちBSE関係 10件

*うち大豆イソフラボン関係 6件

(2) 内訳

食品安全委員会関係	12件
食品の安全性関係	14件
食品一般関係	33件
その他	0件

(3) 問い合わせの多い質問等

【食品の安全性関係】

Q. 妊娠中の飲酒と胎児性アルコール症候群との関係を教えて欲しい。

A. 妊娠中にアルコールを摂取した女性から生まれた子供に、

- ・特徴的な顔貌(小さな目、薄い唇など)
- ・発育の遅れ
- ・中枢神経系の障害(学習、記憶、注意力の持続、コミュニケーション、視覚・聴覚の障害など)

などの先天異常が見られる場合があり、これを「胎児性アルコール症候群(FAS)」と呼びます。

妊婦が摂取したアルコールは胎盤を通じて胎児の体に入りますが、胎児にそのアルコールがどのように作用してFASを引き起こすのかについては、胎児の発育過程そのものに不明な点が多いことや、妊娠中に飲酒した時期、飲酒の頻度や飲酒量、母親と胎児の健康状態や遺伝的素因など様々な要因が関係することから十分に解明されていません。

しかし、最近の研究から、アルコールの代謝に伴って発生する物質が胎児の細胞を

傷つけたり、神経細胞の正常な発育に必要ないくつかの物質の作用をアルコールが阻害してしまう可能性など、様々な原因が複雑に絡み合いながら FAS の発生に関与しているものと考えられています。

アルコールによる胎児の障害は妊娠中であれば何時でも起きる可能性があります。また妊娠中に飲酒しても安全なアルコールの量は明らかにされておらず、妊娠中の飲酒はその量や時期にかかわらず胎児に悪影響を与える恐れがあるとされています。

詳細につきましては、食品安全委員会ホームページの「ファクトシート」 「妊婦のアルコール飲料の摂取による胎児への影響」をご覧ください。

(<http://www.fsc.go.jp/sonota/54kai-factsheets-alcohol.pdf>)